

第3回ワークショップを開催しました

1、開催にあたって

今回のワークショップは、「私が行きたい動物園について考えよう 私たち市民が求める動物園 様々な視点で深堀」をテーマにメンバーのみなさんからご意見や提案を頂きました。

動物園のあり方 -2つの方向性-

たくさんの種類の動物がいる
にぎわいのある動物園

動物の種類が少なくても
動物がゆったりと
幸せに過ごせる動物園

基礎知識

- 動物福祉
- 環境エンリッチメント
- ハズバンドリートレーニング（受診動作トレーニング）
- 飼育基準



2、はじめに

第1回目のワークショップにおける「遊亀公園附属動物園の良さと課題」についてふりかえりました。

- ・良さ：動物とのふれあい・近くで見られる・めずらしい動物が多い・ほどよい広さ等
- ・課題：飼育スペースが少ない・動物がストレスを感じている・動物が見にくい等

その後、甲府市及び動物園から「動物園の現場が考える動物園の今後の方向性」として、動物福祉の観点から、将来の動物園として必要となる施設のイメージや飼育環境の改善方法について事例をもとにした具体的な説明がありました。

また、アジアゾウ「テル」と同様に「日本国内で単独飼養されているゾウの問題に関する報告書」について説明がありました。



3、第3回ワークショップはどんな雰囲気だったの？

今回のワークショップは、多くの市民に親しまれる歴史ある遊亀公園附属動物園が、社会情勢の変化への対応や、国際的な動物福祉の考え方に配慮した今後の動物園のイメージ・方向性等の難しい議論となりましたが、様々な観点から、多様なご意見をいただきました。

また、帝京科学大学の並木先生より、今後の動物園のあり方として、「古さの「良さ」を残しつつ「動物ファースト」を前提とし、その動物達の姿から学び、彼らと地球にお返しをしていくことができるような、現代的な動物園への変化を起こしてほしい！」とのお話を頂きました。



4、ワークショップの進め方

今回のワークショップでは前回のふりかえりを踏まえた「遊亀公園附属動物園の今後の方向性」について意見交換を行いました。

次回は、みなさんの意見や提案を踏まえた具体的な動物園のイメージや機能についてまとめ、さらに、第2回ワークショップにおける遊亀公園の将来像を含めた公園全体の取りまとめを行い、各班で発表します。

▶▶ 本日の進め方

① 遊亀公園附属動物園 今後の方向性を検討

- 現場が考えている方向性ご説明
- 具体的な事例ご紹介

グループ内で協議

② 市民・来園者の立場から（特に子育て世代の立場から）

実施してほしい取組や整備すべきものについて検討

グループ内で協議 →各班の意見を発表



5、3回目ワークショップの主な意見

遊亀公園附属動物園の将来像

第1回WSにおける皆さんの動物園のイメージ

- 動物がのびのびと暮らせる動物園
- 種類が多く珍しい動物も見られる動物園
- 動物との距離が近い魅力的な動物園
- ふれあいのできる動物園
- 動物本来の生態を観察できる動物園
- 手作り感や懐かしさなど古き良きものを残した動物園
- 誰もが利用しやすい動物園
- 飼育員（スタッフ）が働きやすい動物園

各班で上記8つの中から、甲府市において、市民の立場から、将来的に重要と思われる動物園像を選び、ねらい・成果・方策について深掘りしました。

Aグループ

動物本来の生態を観察できる動物園 (動物がのびのびと暮らせる動物園)

ねらい：動物の健康・命の尊さを学ぶ
成果：動物の長寿・動物のストレス軽減
方策：動物の生態観察・展示方法の工夫・資金

誰もが利用しやすい動物園

ねらい：憩いの場、家族のコミュニケーション
成果：家族で楽しめる・来園者増
方策：ビジットセンター・バリアフリー・市民協力

Bグループ

ふれあいのできる動物園

ねらい：教育
成果：好きになる人を増やす
方策：センター施設、専門スタッフ・今いる動物を大切に

誰もが利用しやすい動物園

ねらい：子連れが使いやすい動物園
成果：
方策：飼育スタッフ待遇改善・周知活動

Cグループ

ふれあいのできる動物園

ねらい：子どもが、家族で楽しい動物園
成果：リピーターが増える
方策：エサやり・ふれあいコーナー・乗馬

誰もが利用しやすい動物園

ねらい：次世代に負担を残さない
成果：世代間で来園
方策：飲食・トイレがきれい・グリーン

Dグループ

ふれあいのできる動物園

ねらい：体感・体験・子どもが喜ぶ
成果：命の尊さを学ぶ・来園回数増
方策：エサやり・体の一部に触れる

動物本来の生態を観察できる動物園

ねらい：動物を深く知る・生命の教育
成果：生態系を学ぶ・動物に興味を持つ
方策：一つ一つの動物をよく見せる工夫・ソフト

【各グループから出た必要な施設や機能】

Aグループ

- ・レストラン
- ・乳幼児向けの施設
- ・ビジットセンター（休憩スペース＋自由に遊べるスペース）
- ・子どもの学習（動物の習性を学べる）
- ・遊びながら動物が学べるアスレチック
- ・バリアフリー施設

Bグループ

- ・センター施設（公園と動物園をつなぐ）
- ・屋内の建物（カフェ、セミナー、学び、休憩、動物を好きになる）
- ・屋内の遊び場
- ・子連れが使いやすい施設（母親が主役）
- ・昔ながらの遊園地（残す）
- ・動物のことを説明できる施設（サイン、センター施設など）
- ・ふれあいコーナー（難しい←→だからこそ必要）

Cグループ

- ・清潔なトイレ
- ・ふれあいコーナー（いろいろな動物とのふれあい、ネコカフェ）
- ・エサやりコーナー（100円えさ箱）
- ・サイン（ふれあいの注意事項）
- ・飲食スペース（売店・カフェ）
- ・既存の池は大切に（埋め立てもやむを得ないが最小限に、水の浄化）

Dグループ

- ・参道をまたいだ展示
- ・今あるものを活かした展示
- ・実物のハンズオン展示（象の足の爪など実物にさわられる展示）
- ・エサやりコーナー
- ・解説アプリの開発
- ・多層展示